

横濱市小児科医会ニュース



No.10 1995年4月1日

雑 感

「種痘済証」に思う

小 島 正 典

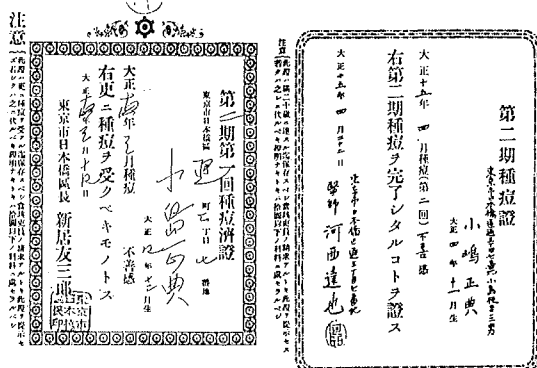
20世紀中の最大の医学的成果は、地球上から天然痘を撲滅した事ではないでしょうか？僕の左腕には6個の種痘癍痕が残っています。第1期種痘済証は関東大震災で消失してしまいましたが、第2期種痘済証は手元に残っています。第2期ですから当然不善感ですが、1年たってもう一度不善感を確認する念の入れようです。この種痘済証の注目すべき点は、注意書記載事項です。即ち「此証ハ満20歳ニ達スル迄保存スベシ 当該吏員ノ請求アルトキ此証ヲ提示セス若クハ之ニ代ルベキ証明ナキトキハ拾圓以下ノ科料ニ處セラルベシ」と明記してあります。当時の10円は現在の1万円以上に相当するでしょう。このような高額の処分をもつて臨んだ当時の予防医学行政や医師全員の、天然痘撲滅に対する情熱，意気込みを、この注意書に感じる事ができます。

多くの感染症に対する有効な治療手段を持たなかった当時としては、予防手段が最強の武器でした。昭和10年半ばからサルファ剤が出現し、戦後しばらくは各種の抗生物質が入手できるようになっても、先人達はジフテリア，ポリオ，日本脳炎，結核など，その予防方法に全智を傾けて研究され，今は小児科医の門前が閑静になる程の成果をあげられました。

戦後，確かに生活環境が改善され，治療に有効な手段も増加しました。日本人の平均余命が世界一にもなりました。その原因の一つに乳児死亡率の激減が挙げられています。今世紀に入って，小児科医の活躍は多くの業績を残したと言えましょう。

これからの小児科医は何をすべきなのでしょう？社会経済的影響から，当分の間，わが国の少子化が進む事でしょう。少数精鋭の民族が要求されるとすれば，胎児期，新生時期，乳幼児期と言う，人間形成の根幹に係わり得る責任は大きいと言わざるを得ません。比較的に等閑にされている思春期医学にも目を向ける必要があります。

今世紀はじめ，先人達が天然痘撲滅に向けた情熱をもって，今後は，小児期の精神身体医学に本格的に取り組む事が望ましいと思われま



二つの提言

(8)

学校保健

学校内科医の立場から

南区 三 沢 孔 明

「学校保健」は文部省設置法第5条により「学校における保健教育で保健管理をいう」と規定されております。前者は保健学習と、保健指導であり、後者は学校現場では心身管理、環境管理と生活管理に分けられています。現在の医学講座の中では「学校保健」は小児科学の小児保健の一分野として位置づけられておりますが、我々は学校医になって初めて「学校保健」の文字に接し、勉強する事になるのが現状です。健康診断や、予防接種などは我々小児科医として対応出来ますが、その理念、構造、運営についてはあまり勉強する機会はありません。「学校保健」は法令により規定され運用されていることをよく理解していないと、現在行われている数々の検診事業にしてもうまく進行して行かず、時には失望してしまいます。

我々小児科医として、毎日子供に接して治療し、成長、発育を観察している者にとって「学校保健」は日常的な問題であり、小児科医が学校医になれば、学校側にとっても、最も好ましい状態といえます。又、感染症の低年齢化が指摘されている最近では、保育所や幼稚園の嘱託医は、小児科医が最も望ましいという事になります。

最近是学校医の老齢化が進み、学校現場での課題が増加しております。学校や教育委員会は医師会への遠慮もあり「我慢」で過ごし、医師会自体も、体質とその医師への思いやりもあって、学校保健活動は沈滞して来ており

ます。定年制についても、医師会員が協議すると、本音と建前論に終始して結論が出ないのが現状です。自分が65歳から70歳になったら（私も今年で65歳になりました）是非考えるべき問題で「身体」や「考え方」の限界を感じたら是非後進に席をゆづるべきで、又、若い医師（特に小児科医）は自分の診療が忙しいからと、しりごみすることなく進んで学校医になってもらいたいと切望します。

ところで私の関係する「学校心臓検診」ですが、昭和57年、市大の新村先生を中心として私を含めた3～4人で「手づくりの心臓検診を」として、最初はPTAのお母さんにも協力してもらい出発しました。我々学校医の循環器疾患に対する勉強不足を補い、収入も専門業者に、でなく医者にとの考えから、後には検診費用（現在約1億2千万円そのうち8千万円以上はどうしても業者に行きます。）を直接医師会に入れる全面委託事業にしました。新村先生、柴田先生を始めとする多くの循環器科の先生と、医師会員との努力に支えられながら、今日までやって参りましたが、10年以上たつとシステムの不備が目について来ます。特に最近は、当初と違って、多くの循環器科専門の小児科医の方々が開業された事と、検診人数（約7万人）と地域的な問題もあって、検診内容は濃くなりつつありますが、まだまだその不備、不揃いは、これからの課題と考えております。しっかりした先生方が多くなり、後進にまかせられる今日この頃になって参りました。

最後に、21世紀に向かって、医師過剰時代に入り、ますます少なくなる子供達を、大切に、たくましく育てるためにも、学校医を片手間に行う時代も過ぎて来ます。我々小児科医も、小児科医であればよいというものだけでなく、時には専門的技術よりも、学校の教育社会の中でよりよい人間関係をはぐくめる医師が必要で、「学校保健」も量から質の時代に入って来ていると感じます。

新米学校医の感想

金沢区 藤原 芳人

開業して1年2カ月ですが、やっとホームドクターの感覚が理解出来てきました。医院は金沢区の北端に位置しており、昨年4月から学校医として担当している小田小学校とは道路を隔てただけの近隣にあります。当然、生徒の多くを普段から家庭医として診察していてとても親密感があります。

学校保健との関わりは横浜市の学校腎臓検診の判定委員会や小田原市の腎臓検診を介してもっていました。しかし検査などのデータの回覧のみで判定することに心臓検診（小生は腎臓疾患が専門であり小児の心電図の勉強は学生、研修医時代以来の猛勉強でした）と同様にマスキリング事業であるとはいえずとても機械的で若干抵抗がありました。

先日、金沢区の眼科学校医の先生の話を書く機会がありました。以前は眼科検診に際して校医が児童生徒の頬に触り下眼瞼をめくり目を観察していたのですが、最近では本人達が自ら眼瞼を翻すようになってきているとのことです。理由は、眼科医の手を介して流行性角結膜炎等を他の生徒に罹ってしまうことを懸念してとのこと。先生自身の小学生時代に検診を受けた校医の先生の温もりと“おう！元気で丈夫だな！”という優しい声かけによって先生自身のなかに“世の中に貢献出来る人物像、自分の尊敬する人物像”を見た様な思いがしていたのに僅かなスキンシップをも無くしてとても淋しいと話されました。

私の経験した健康審査は小学生1～6年を3日にわけ昼休みの時間に100人あまりを診察しました。アトピー性皮膚炎、喘息、心雑音、貧血、側弯、腫瘤の有無など診るわけですが（聴診器を忘れ、慣れない他人のもので

代用した時、100人以上も続けて聴診した時は右の耳朵が腫れてしまいました）腹部、口腔内所見のとりにくさや現状のような健康審査では時間的、人的制約により質的に限界もあると思いました。しかし生徒一人一人に直接接して出来るだけ目をみて会話を交わしました。ツ反応、BCG、ジフテリア（担任の教諭の性格の違いが子供に反映するかの如く注射で泣いちゃう子が多く見られるクラスと全くいないクラスに別れたことは子供の性格形成上、興味深かったです）等も以後個別接種になるようすが子供達に直接触れ合うよい機会だなと感じていました。秋の運動会に招待されましたが家庭医として実に多くの顔見知りの子供が出演して演技したり走ったり、登場する度に楽しみました。今年はインフルエンザ大流行でしたが同校の養護教諭が作製してくれた保健便りにより同校の欠席状況の把握が可能でした。学校と医院が近隣にあることで校医をしている学校を通して流行疾患の発生に敏感でいられると思います。

もともと開業個人医は病院勤務医の場合と異なり患者の病状のきめ細かな経過観察も出来る立場にあります。さらに校医はマスキリングでは叶えられないスキンシップの可能な立場で個々の子供の健康管理が出来る事が最も重要ではないでしょうか？さらに基礎疾患を持つ生徒を把握して専門医との架け橋的な働きも重要な任務と考えています。

今後の個人的な目標は禁煙教育（教員、医療従事者の禁煙から！）、運動時のスポーツ障害、外傷の予防を含めたスポーツ医の立場からの部活指導等です。

研修会抄録

出産前小児保健指導（プレネイタル ビジット）について

昭和大学小児科 奥山和男

I. 出産前小児保健指導（プレネイタル ビジット）成立の経緯

核家族化の進展，地域連帯意識の希薄化や情報の多様化などによって，妊娠，出産，育児に関して親側に不安や混乱が生じていることが指摘されている。これに対処する施策として，「これからの母子医療に関する検討会」は，平成3年6月の中間報告で，「出産前小児保健指導（prenatal visit）」を提言した。この提言に基づいて，平成4年5月に厚生省児童家庭局長および母子衛生課長の通達が出され，平成4年度からモデル事業として開始された。しかし，その実施が急であったため，開始時より混乱を招いたところもあった。また，厚生省の予算獲得の資料として小児科学会新生児委員会が急遽作成した「出産前小児保健指導問答集」が産科側との話し合いがないままに活字になったことから，一時産科側の協力を得られないという事態に陥った。そこで，日本小児科学会，日本産科婦人科学会，日本小児科医会，日本母性保護医協会の代表者からなるワーキンググループが結成され，実施に向けての共同作業が開始されて，出産前小児保健指導のガイドラインが作成された。

II. 出産前小児保健指導とは

1. 出産前小児保健指導の目的

出産を控えた妊婦およびその家族が産婦人科医と連携した小児科医を訪れ，母子保健指導を受けることによって育児不安を軽減し，よりよい育児環境を作るとともに，小児科医

による精神的支援によって良好な親子関係を育成することを目的としている。

2. 本事業における産婦人科医と小児科医の役割

医療の領域からみれば出産は産科領域と小児科領域の分岐点といえるが，母子にとってはそれは一つの流れのなかの通過点であり，本来産婦人科医と小児科医の密接な関係は欠かすことができないものである。その密接な連携を妊婦およびその家族に示すことにより与え得る安心感は大きいと考えられる。

3. 既存の保健事業と出産前小児保健指導との関わり

従来から行われている母親（両親）学級は集団指導であるが，出産前小児保健指導は育児を中心に据え，よりきめ細かに個別指導を行うものである。母親学級や妊婦健診と出産前小児保健指導との連携により，妊娠，分娩，育児までの一貫した指導が行われることは，母子保健事業の一層に拡充と充実につながるものと思われる。

III. 出産前小児保健指導の実際

① 市町村は対象となる妊婦に対して受診表を交付する。② 妊婦は妊婦健診の際に受診表を持って産婦人科医を訪れる。③ 産婦人科医は出産前小児保健指導のための紹介状を作成して妊婦に手渡す。④ 同時に産婦人科医は市町村に対して報告する。⑤ 市町村は産婦人科医に対して費用を支払う。⑥ 妊婦は産婦人科医からの紹介状を持って小児科

医を受診し、出産前小児保健指導を受ける。
⑦ 小児科医は保健指導の結果を市町村に報告する。同時に紹介元の産婦人科医に指導内容を報告する。⑧ 市町村は保健指導を行った小児科医に対して費用を支払うとともに、報告された内容を市町村の保健指導に資する。

IV. 現状と問題点

本事業は平成4年度は10市1町で実施されたが、平成5年度と6年度はともに11市2町で行われたに過ぎず、実施市町村がほとんど増えていない。本事業が全国的に普及するためにはモデル事業の実施市町村を増やさな

ればならないが、われわれ小児科医の積極的な働きかけが必要である。また、産科医が小児科医宛に紹介状を書いても、妊婦が小児科医を受診する率が低い。この理由として、妊婦は分娩に関する不安ばかりが先行していることや、妊婦健診を通じて産科医との信頼関係がすでに確立しており、産科医の指導で十分と考えていることや、ほとんど面識のない小児科医と新たな関係を持つことへの煩雑さなどがあげられる。受診率を高めるためには、産科医に積極的に出産前小児保健指導を受けることを勧めてもらうとともに、小児科医が産科医の期待に答えられる体制を作り上げることが必要であろう。

医会通信

10月21日の研修会、そして12月10日の市各科医会協議会学術集談会もお蔭様で盛会裡に終わることが出来ました。

乳幼児アレルギー抗体採血検査事業は昨秋、急に進展して一般小児科医で扱えるようになり幸いでした。

学校医関係では教育委員会との話し合いで、喘息児童のサマースクールの次年度の見直しが決まり、感染免疫、心の問題でも養護教諭の研修講演等の開催の見通しがつきました。しかし学校医関係の改革は組織上の問題があり、壁の厚さを痛感しています。

聊か唐突の感のあった消炎解熱鎮痛剤の使用制限は当医会の手を負える問題でなく、県小児科医会、日医を通じての厚生省との折衝の結果はご存知の通りで、日医、日本小児科医会の実力の低下は嘆かわしい次第です。

市夜間救急センターの小児科出勤医が少なく、運営に苦慮している現状に鑑み、未登録の先生方に文書でお願い致しました。

本年1月より漸く乳児医療費無料化が実施されましたことは喜ばしいことですが、3歳児まで拡大するべく更に要望を続けます。

発会以来、名簿を出しておりませんでしたし、この間の異動も多く、また入会ご案内をしていない勤務医も多いので、改めて入会案内を致しました。この結果をしめて3月に新名簿を発刊する予定です。

昨年の予防接種法の改訂に伴い、特に集団接種の新しい実施方法には難点が多く、学校関係に關しては教育委員会と折衝中であります。この点もふまえて、4月21日の総会の研修会には予防接種について、加藤達夫講師のご講演を予定しておりますので、是非ご参集の程をお願い申し上げます。

会長 五十嵐 鐵馬

北部小児科医会

北部小児科医会誕生

平成6年11月より緑区が分区し、緑区、青葉区、都築区の3区となりました。それに伴い、平成7年4月より医師会の組織も新しくなり、3つの区にそれぞれ小児科医会が誕生し、各区に関する小児科医会の活動は各区で行うことになる。そして、3区の小児科医会が協力した方が好都合の場合、例えば、保健所の乳幼児健診や、学術研修会等は、協力した方がマンパワーも大きくなり、資金も有効に使えるので、3区合同の北部小児科医会を誕生させた。

これ迄と同様、小児科の仲間が集り、親睦を深め、こども達の為、小児医療の前進の为一層の努力をする積もりである。

ふり返ってみると、昭和52年、5名で発足した「緑区小児科同好会」が昭和61年、会員も20名近くとなり、「緑区小児科医会」となり、平成7年、分区により、3区にそれぞれの小児科医会と、合同の「北部小児科医会」誕生の運びとなり、会員も合計約30名となった。

思い出すままに、これ迄の仕事をふりかえってみる。

- (1) 休日急患診療所マニュアル作成。
- (2) 「小児の咳嗽」地方会シンポジウム発表。
- (3) 個別予防接種アンケート調査。
- (4) 保健所乳幼児健診に小児科医会協力。
- (5) 伝染性紅班に関する調査研究。
- (6) ツ反、BCGアンケート調査。
- (7) 保健所養育ネットワーク事業に参加。
- (8) 緑区産科、小児科懇談会の発足。
- (9) MMRワクチン副作用調査。
- (10) 保健所職員と小児科医会との定例懇談会。
- (11) 予防接種、健診等自費料金調査。
- (12) カゼに対する解熱剤投与制限に関する活動。

以上の様であるが、今後、北部小児科医会誕生を期に、全員が協力し、なごやかな雰囲気の中で、さらに前進を続けたいと思う。

(有本泰造)

平成6年という一年間は、振り返ってみると、会員の皆様の御協力により活発な実りある年であったように思う。順次述べてみたい。まず会員の古参である、山田雅人、中嶋光清の両先生があいついで他界されたことは大きな悲しみであり、損失であった。御冥福をお祈りする次第である。一方重永博登志、小林栄治、斎藤正峰、殿内力と若い先生方が開業され医会に入会されたことは大きな喜びであり、今後の活躍が大いに期待される場所である。保健所乳幼児健診および養育ネットワーク事業には、今まで通り積極的に協力して保健所が要請して来た業務のすべてを小児科医が分担して担当した。桑原、入戸野両先生によって緑区内の診療所および病院の小児科における予防注射・健診・診断書等の自費料金の調査がなされた。これを参考にして各自が見直しをおこない、料金の修正がおこなわれた。保健所職員との懇談会は、毎年3月におこなわれているが、今回も、有意義な意見の交換がおこなわれた。「緑区産科小児科懇談会」は平成4年8月に発足して以来年2回、小児科と産科がそれぞれ交互に担当し、周産期に関する勉強と、両科の懇親を行って来ている。9月には第6回を数え、神奈川県立こども医療センター黒木良知先生に「産科と小児科のための遺伝相談について」という演題で入門的解説をしていただいた。今後も引き続き産科小児科にまたがる問題を勉強して行くことになろう。育児不安をかかえている親達に少しでも力になってあげられるよう努力中である。やがては出産前小児保健指導の導入につながることを期待してやまない。分区に伴い、医師会も青葉区、都築区、緑区に分れそれぞれに小児科医会が出来る。そしてこの3区の小児科医会が集まって北部小児科医会を作ることになる。今後の発展を期待したい。

(渡辺昭彦)

西部小児科懇話会

前号報告(第169~171回)以降の本会例会は、下記の様に行われました。

- 第172回 平成6年9月26日(月)
演題:「UTIとobstructive nephropathy」
症例呈示:市民病院小児科研修医
田中芳明先生(入院例)
青山峰芳先生(外来例)
講師:都立清瀬小児病院院長(泌尿器科)
川村猛先生

内容:尿路感染症で平成4・5年の2年間に当科に入院した20例(大半は1歳未満,男児)を分析し,さらに再発例・重度のrefluxで手術に至った外来例を報告しました。新生児・乳幼児のUTIの基礎にあり,また進行すると腎不全に至るobstructive nephropathyに関して,小児泌尿器疾患の権威の川村猛先生より,豊富な自験例や学会報告に基いた講演がありました。

- 第173回 平成6年11月14日(月)
演題:①「当科の心臓外来」
②「小児の単純胸腹部X-Pの読み方」
症例呈示:②市民病院小児科研修医
寺道貴恵先生
講師:①市民病院小児科 三浦大先生
②市民病院がん検診センター医長
増田英明先生

内容:①当科では15年以上,専門医による心臓外来を行っていますが,その内容を分析しました(現在フォロー中が約300例,20%が先天性心疾患,80%が川崎病と不整脈)。

②小児科一般診療で最も重要な検査である単純X-Pに関する基礎的知識を,実例に則して講義していただきました。

- 第174回 平成7年1月30日(月)
演題:「神奈川県的新生児スクリーニングテスト」
講師:神奈川県三崎保健所長 前坂機江先生
内容:神奈川県的新生児スクリーニングテストは全国に先がけて実施され,以来約20年着実な成果を挙げてきていますが,県立こども医療センター在任中に中枢的役割を果たしてこられた前坂機江先生の精緻な講演をいただきました。なお恒例の

新年会が,引き続き行われました。

(横浜市立市民病院小児科 清水節)

中区小児科医会

- 第143回 小児科医会(納涼会)9月30日(金)
演題 横浜に於ける国際学校と子供達の現況
—ことに英語学習,登校拒否児等について—
演者 横浜インターナショナルスクール
副校長 エドワード・バーナード先生
主任 恭子・バーナード先生

納涼会だが,多方面のトピックスを考える為に,研究会の形式をとり,現代の横浜に於ける国際学校及び全国の主だった外国語を導入して教育している施設の紹介を頂いた。英会話塾が盛んで,英会話スクールの広告も多く,また,海外からの帰国子女の増加に伴い,志向も変わってきた。また外国語学校ゆえの登校拒否児も大きな問題となり教育を再考させられるとのこと。

スピーチは,英語で行われ,英文の印刷物を資料に,一同で知恵を出し合った。中区小児科医会の外国語レベルの高さを物語った楽しい夕刻でした。

- 第144回 小児科医会(研究会)11月29日(火)
演題 小児科医として子供の命を見つめる
演者 中区小児科医会会員参加者全員

藤沢市民病院小児科部長で未熟児,新生児が専門の内海裕司先生に,未熟児,新生児に於ける治療の決定について——とくに小児科医の選択及び決定について基調講演をして頂き,全員参加型で,あけすけにものを言った。加療すれば生命は救われ,後遺症が残存するといった,技術者としての小児科医の真の姿を充分討論し,意義深い時間でありました。

- 第145回 小児科医会(新年会)
平成7年2月10日(金)

1月の阪神大震災に続いて,インフルエンザが猛威をふるい,疲労気味の小児科医の心を欧州の音楽が慰めた。実に豊かな時間の中に,心が乱舞しました。

- 演奏者 原田 和篤(横浜ノネッターオーボエ)
加藤 洋男(横浜ノネッターファゴット)
(中区小児科医会 向山秀樹,
内海裕司,四家広子)

磯子、港南、南の3区より成る南部小児科医会は、平成6年4月会長が交代（浅井→矢崎）致しました。県立衛生看護付属病院 豊田・済生会南部病院 森両小児科部長が特別顧問となられ、池（磯子）、岡島（港南）保健所長にも特別会員として加わっていただきました。また、日医の生涯研修・小児科学会の研修としても認められています。平成6年度は、以下の教育講演会・勉強会が上記2病院で開催され、毎回多数の出席があり好評でした。

* 6. 6. 9 於 付属病院

勉強会「膿胸・肺膿瘍について」

* 6. 9. 21 於 南部病院

教育講演会「低身長と成長ホルモン治療について」

講師 県立こども医療センター

立花 克彦 先生

* 6. 11. 16 於 付属病院

教育講演会「行政からみた小児保健」

講師 県衛生部保健予防課

河西 悦子 先生

この他、各病院独自の勉強会にも参加させていただき、各自研鑽に励んでおります。

平成7年2月4日、横浜プリンスホテルにて午後7時より社保小児科専任審査委員 大川一義先生より「最近の小児保険診療のホットニュース」を聞かせていただき、その後引き続いて新年会が催されました。小児科出身の池・岡島保健所長のご参加もあり、会員相互の親睦とともに行政面での交流を深めることが出来ました。（以下、新年会出席者敬称略 アイウエオ順）

病院部長：豊田（付属） 森（南部）

保健所長：池（磯子） 岡島（港南）

会 員：（磯子区） 河合 北村 齋藤 渋谷

露木 矢崎

（南 区） 浅井 鶴飼 宇南山 大川

川田 島田俊 島田寿

宮地 三沢

（港南区） 小島 富久尾 堀越 八木

渡辺 永持 竹田

（文責 庶務担当 齋藤綾子）

3月27日（月）下記の通り、講演会を開催する予定です。

演題：薬物アレルギー

（テグレートールによる症例検討）

講師：五十嵐宗雄先生

国立横浜病院・小児科

場所・時間：横浜西部総合保健センター

P.M.7:30

栄区の会員 松本豊介先生が、3月いっぱいにて閉院し、千葉県佐倉市へ、転出なさるとのことです。

（南西部小児科医会会長 内山 英男）

庶務だより

平成6年度中間報告

1. 総会および研修会

H 6. 4. 15 於 市医師会 4Fホール

演題：染色体異常の出生前診断

講師：北里大学 前田 徹教授

H 6. 10. 21 於 県医師会 4Fホール

演題：出生前小児保健指導のガイドライン
モデル事業の実際と問題点

講師：昭和医大小児科 奥山 和男教授

2. 会 議

常任幹事会

H 6. 6. 14 於 アトラス（8名）

H 6. 8. 2 於 大雅飯店（11名）

H 6. 12. 6 於 大雅飯店（10名）

H 7. 2. 9 於 アトラス（8名）

3. その他

各科医会合同研修会の開催

1歳未満児の無料化実施（H 7. 1. 1より）

インフルエンザワクチンの個別化

はしかワクチン接種年齢の拡大（1～6歳）

集団接種前の診断強化と人数制限

分区に伴う地区小児科医会の再編

（庶務 野崎 正之）

平成6年度会計（中間）報告
（平成7年3月16日現在）

I	収入の部	2,587,523
内訳	1 前期繰越	1,219,787
	2 年会費（255名分）	765,000
	3 当日会費	154,000
	4 助成金	267,750
	5 協賛金	170,000
	6 その他	10,986
II	支出の部	969,438
内訳	1 総会・研修会費	250,000
	2 講師謝礼	80,000
	3 会議費	341,054
	4 広報費	151,440
	5 通信連絡費	122,950
	6 慶弔費	20,000
	7 雑費	3,994
III	差引残高	1,618,085
	1 現金帳	42,309
	2 郵便貯金	1,190,643
	3 センター	117,000
	4 信用組合	268,133

平成7年度 横浜市小児科医会予算案

I	収入の部	3,091,835
内訳	1 前期繰越	1,618,085
	2 年会費（300名分）	900,000
	3 助成金	267,750
	4 協賛金	300,000
	5 その他	6,000
II	支出の部	3,091,835
内訳	1 総会・研修会費	1,618,085
	2 講師謝礼	500,000
	3 会議費・事務費	350,000
	4 広報費	600,000
	5 名簿作成費	200,000
	6 通信連絡費	300,000
	7 慶弔費	150,000
	8 予備費	180,000
	9 雑費	111,835

1995年4月1日発行
横浜市小児科医会ニュースNo.10
題字 五十嵐鐵馬
発行人 横浜市小児科医会
代表 五十嵐鐵馬
編集：横浜市小児科医会広報部
事務局：〒231 中区麦田町4-99
Tel 622-8676（野崎方）